



人類の未来を変える海洋深層水

高知県海洋深層水研究所
所 長 津嶋貴弘

「海は青い」というイメージは誰でもお持ちでしょうが、なぜ青いのでしょうか？それは、太陽の光は赤、橙、黄、緑、青、藍、紫などの様々な色の光が混じった白色光として地上に降り注ぎます。その太陽光線が海中に入ると、青以外の色は吸収されて青い光だけが海中に浮遊する微粒子に当たって跳ね返るため、青く見えるのです。

また、水深 10mより深いところでは物が全て青く見えます。水深 200mより深くなるとヒトは色を感じられなくなりますが、水深 1000m程度まではごくわずかに青い光が届いているそうです。実際、多くの深海魚の目は青い光だけを感知できるとのことです。海は青い光だけを通すフィルターのような働きをしているのです。

この太古から青い光だけを浴びながら巨大な潮流となって流れ続けている水があり、この世界を還流する海洋深層水こそ、地球が微妙な働きで作りに出した無尽蔵の資源であり、青い光だけを浴びてきたこの海洋深層水にはすごい力が秘められていることが、この度の岡嶋先生の研究から分かってきました。

今回の研究成果である「海洋深層水は、脳内の海馬の IGF-1（インシュリン様成長因子-1）を増加させ、認知機能の改善効果がある」との発表は、海洋深層水が人類に光を与えるものとして注目されるものです。すでに岡嶋先生は従来の研究により「青い光を当てて脊椎損傷回復」という実験にも成功されているとともに、各種作用の解明も臨床効果から証明されておられます。

このことは、「様々な病気などに悩む世界の人々を、世界の深海を流れる深層水が助ける」という近未来を予感させるものではないでしょうか。海は青くてそれを不思議に思わなかった頃、そして、海洋深層水の研究に取り組み始めたころでさえ想像もできなかったような研究成果ではないでしょうか。

今後、この青い光を浴びてきた海洋深層水が持つ力の更なる解明と利活用を進めることを、私としても積極的にご支援させていただきます。

高知県海洋深層水研究所

☆当時の科学技術庁のアクアマリン計画で、ハワイ、ノルウェーについて、日本で最初に建設された国の海洋深層水研究機関